

実践報告 札幌市立真駒内公園小学校

(1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくりに関する研究

「自分」を大切に、「ひと」を思いやることのできる子どもの育成

～自尊感情を高めることを軸とした人権の授業づくり～

- 命の尊さを理解し、自分の命も、他者の命も大切に感じることができる心情を育てる。
- 自分や相手を尊重する実践的態度を育てる。

(2) 実践の内容

【実践①】3 学年「赤ちゃん誕生」について

○ ねらい

自分の誕生から今まで、周囲の人に支えられ守られながら成長していることに気付く。

○ 学習内容

- ・保健師の話から、胎児の成長の様子について知る。
- ・自分の生後 1～2 年の様子について、保護者から話を聞く。
- ・赤ちゃんが生まれた時の周りの人の思いについて考える。
- ・子育てサロンに来ている赤ちゃん、お母さんと交流する。
- ・「命の学習」について、専門家の話を聞く。



【実践②】6 学年「描こう 未来予想図」について

○ ねらい

自分の将来の夢について、多くの方から話を聞いたり、自分の考えを話したりして、将来への夢を実現するための努力に気付き、自分を見つめ直すきっかけづくりにする。

○ 学習内容

- ・自分の憧れの職業について考え、調べる。
- ・多くの種類の職業の方に、話を聞いたり、相談したりする。
- ・中学生から、自分の生活についてのアドバイスを受ける。
- ・多くの方の話を聞いて自分の夢を見直し、考える。
- ・保護者に自分の夢を語る。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- 本校では、開校当時から「人権学習」を核として研究を進め、平成 26 年度に実践発表会を開催した。「人権学習」中心の研究は終えてはいるが、この実践発表会で得た成果を教育課程に位置付け、検証・改善を図っている。自他を大切にしたい思いやりの心が、学習や学級経営の中で育まれている。
- 今年の3年生の実践では、自分は多くの人に喜ばれながら誕生したことを知ることができた。自分の命は自分だけのものではなく、周りの人たちに助けられながら生きてきたことに気付き、命の尊さを改めて感じる事ができた。
- 6年生の実践では、子どもが将来の夢をゲストティーチャーに相談したり、友達同士で伝え合ったりする姿も見られた。このような場を設定することで、多くの人と触れ合い、「自分」を見つめ直すよい機会となった。さらに、今年は中学生にもアンケートを依頼し、進学した中学校で自分が努力すべき点や足りない点について知る場を設定した。自分と年齢の近い先輩からのアドバイスを取り入れることで、「自分」について、より真剣に考えることができた。また、友達との交流を通して、「自分」だけではなく、「友達」も大切に相手意識を醸成することができた。

② 課題

- 今までの学習内容や活動を踏まえ学習を進めているが、子どもたちの実態に合ったカリキュラムの工夫や活動内容の精査が必要である。
- 毎年多くのゲストティーチャーから話を聞いたり、相談したりして大きな成果を挙げている。今後もゲストティーチャーや担当者の連絡先などを引き継いでいくことが、次年度のスムーズな活動に向けて必要となる。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 単学年で終結するのではなく、6年間という長期的なスパンで人権教育を進めることが大切である。そのためには、教育課程に位置付け、検証・改善を図りながら継続し、地域、保護者の方にも発信して、理解、協力を得ることが必要である。